

キャラクター名  
結縁 凍華

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー	ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	中学生
	サラマンダー				
オプション		年齢	14	性別	女
覚醒	素体	衝動	自傷	初期侵食率	32 %
出自	双子	経験	実験体	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	4	0	0			4	行動値	4
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	
コネ: 情報屋	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 申し子	P	N		
燈火	P 傾倒	N 不安		
風音さん	P 尊敬	N 恐怖		
無幻 零	P	N		
フレンズ	P 好奇心	N 恐怖		
ひが	P 尊敬	N 嫉妬		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
炎陣	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果:	カバー							
フェニックスの翼	5	4	クリンナップ	至近	自身	自動		
効果:	LV×5回復							
火の鳥の加護	1	4	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果:	フェニ範囲化 シナLV回							
氷盾	5	2	オート	至近	自身	自動		
効果:	ガード値+LV×5							
氷炎の剣	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	攻撃力LV+6、ガード値6、命中-2の武器作成							
エナジーシフト	1	10	オート	至近	自身	自動	Dロイス	
効果:	HPダメージを0に変更し、HPをLV×3点回復							
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	飛行状態で戦闘移動 距離+LV×2m							
鋼の水	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果:	ガード値+10 シーンLV回							
冰雪の守護	3	3	オート	至近	自身	自動		
効果:	ダメージ-LV+1D10							
氷の茨	3	3						
効果:								
セーブフレーム	1	5					120/自傷	
効果:								
氷の理	★							
効果:								
凍結保存	★							
効果:								

冷静な方の申し子。  
もともとはFHの実験施設に居た為、思考はそちらに近い。  
燈火への依存心がとても強く、基本的には常に一緒にいなければ気が済まない。つまり極度のブラコン。  
病ませて拗らせてきた。

私たちはもともとはFHの実験施設で産まれた。  
双子でかつその2人がサラマンダーのシンドロームを持つピュアブリードだったのでその管理者は大層気に入ったんだろう。私たちは数多の実験を繰り返されて来た。  
――私が覚えているのはそれくらいで他のことはほとんど覚えていないんだけどね？

ある時だった。その日は私だけが呼び出された。一体何が行われるのだろう。私には皆目見当もつかなかった。けれど、その部屋に入ったその瞬間。  
――力が、使えない…！？  
自身に宿る力の一切を扱うことができない。  
そこで待っていた1人が言う。粘つくような声で私の嫌いな人物の1人。この実験施設の責任者だった…はず。  
「どうだい？産まれた時から側にあった力が一切使えない気持ちは？」  
その声につられてその方向を見る。するとその先にいたのは、数多の男たち。  
――何故こんなところにこんな人数が？  
――瞬そう考えた…が、気づいてしまった。彼らが持っているものは武器ではないから私を処分するつもりではない。彼らはオーヴァードでないから力が必要以上に奪われた状態でもない。  
――じゃあ、なんだろう？  
その視線から、私を見る視線から気づいてしまった。その視線は、オーヴァードを見る目でも、実験体を見る目でもない。  
――女を、見る目だ。

